



# 六華の心

酒田市立第六中学校  
学校だより 第8号  
校長 齋藤 啓悦  
令和2年5月29日

## 部活動再開 段階的に通常活動へ

### 各種大会・コンクール等は中止が決定



ようやく学校が再開。部活動は26日に部紹介を行い、27日から段階的に活動を再開しました。2、3年生にとっては再開を心待ちにしていた人も多いはず。1年生にとってもすでに入部を決めている、あるいは早く見学して決め、一日も早く活動したいと思っている人も多いと思います。



部活動だけでなく、放課後にクラブや習い事をしていることも大事な活動です。何かをやろうと決め、目標を決めて頑張る努力は、間違いなく自分を成長させてくれます。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、高校生の全国高校総体（インターハイ）、東北・県・地区の各大会や春夏の高校野球大会（甲子園）が中止、また様々なプロスポーツも打ち切りとなり、未だ再開されていない状況です。東京オリンピック・パラリンピックも延期になってしまったほどです。スポーツだけでなく、文化施設の閉鎖などもあり、コンサートや演劇など文化活動も休止した状態が続きました。これらのことは社会全体に大きな影響を及ぼしています。



運動部に所属する中学生にとっての最大の目標となるのが「全国中学校体育大会（いわゆる全中）」です。この予選となるブロック大会（東北大会など）や都道府県大会も中止となり、そして地区大会も中止となりました。吹奏楽や合唱のコンクールも同じく、目標としてきた全国や県そして地区のコンクールが中止になってしまいました。これまで目標を持って頑張ってきた生徒の気持ちを考えると、特に3年生には仕方ないから次に向けてがんばれと簡単には言えないというのが正直な気持ちです。

3年生にとっては次ではなく今であり、来年ではなく今年なのです。

命の大切さ、安全優先は言うまでもありません。生徒にはいつかこの状況では仕方のなかったことだ、自分たちの命を守るために大人が判断してくれたと理解してくれる日がくると思っています。逆に部活動再開について、いつまた感染が広がるかもしれないのにまだ早いのではないかと、という意見があっても当然だと思います。再開したとはいえ、対策をしっかりとっていく必要があります。



部活動のあり方を考えたとき、大会やコンクールの成績がすべてではないものの、目標を持って頑張ってきた成果、これまで身につけた力を発揮する機会がなくなることは残念でなりません。大会関係者（責任者）が中止の発表の際に「断腸の思い」「苦渋の決断」といった言葉が使われますが、まさしくその通りだと思います。



そのため、各種競技で代替大会や練習会の実施が検討されています。今後の感染状況次第ではありますが、感染拡大が落ち着いてきている地域では最大限の対策を講じるなど一定の線引きをしながら、どのように開催できるか検討を重ねている状況です。中3・高3年生にとっての部活動の区切りを何らかの形でつくるのは大人の役割ではないかと考えます。 ※写真は26日の「部集会」より(すべての部は載せられませんでした)

#### ◆今後当面の部活動について

県や市の基本方針（ガイドライン）に則って行います。3密を避けるために活動内容や活動場所を工夫して行います。学校が再開したとはいえ、通常の活動とは異なる活動であることご理解ください。

6月からは、部活動ガイドラインにそって、平日は2時間、休日・土日は1日3時間までとし、当面の間は自校のみの活動とします（対外試合等は行わない）。無理はせず、生徒の様子を見て、段階的に練習の量や質を上げていくようにします。

感染症対策に十分配慮して活動を行います。不安がある場合は参加を強制するものではありませんので、遠慮なく顧問の先生または学校までご相談ください。

